

房総の早春の野山を歩いてきました

小田島高之:生物多様性センター

3月も下旬になりました。このところずっと春らしい暖かな日が続いています。今日も穏やかな良い天気。こんな日を一日家で過ごすのも勿体ないと思い、車を走らせて君津の山里へと向かいました。

カタクリの里

最初に向かったのは小櫃川にほど近い丘陵地。ここは数年前から地元の方々がカタクリの自生地を保護しているところです。車を降り、オオイヌノフグリやヒメオドリコソウ、アブラナなど、春の花が咲く畑道を進みます。記憶をたどりながら歩くこと数分、まだ丸裸の栗の木がまばらに生えた北向きの斜面に到着しました。

思っていたとおり、斜面にはカタクリの花が沢山咲いていました。薄い赤紫色の花弁を反り返らせ、うつむいて咲いている様は何とも可憐です。蕾の株もまだ多く、しばらく楽しめそうな気配でした。カタクリに混じって白いアズマイチゲやニリンソウの花も見られました。

カタクリの咲く斜面を登りきってしばらく進むと、

スミレが群生する丘に出ました。タチツボスミレは今が盛り。カタクリとは対照的に日の良くあたる南側の斜面に良く見られます。沢山のタチツボスミレの中を少し探すと... やっぱり、ありました。ニオイタチツボスミレです。鼻を近づけると微かに清々しい香りがします。

田んぼでは

カタクリの花が見られたことに満足し、次は近くの田んぼへと向かいました。田んぼには水が引かれ、きれいに代掻きをされていました。田んぼに下りる斜面にはもう「とう」のたった蕗やつくしんぼうが生えています。耳をすますと「コロコロッ」とか「カタカタ」という鳴き声が聞こえて来ました。これはオスのシュレーゲルアオガエルがメスを呼ぶ声。もうしばらくすると、田んぼの縁に白い泡状の卵塊がいくつも見られることでしょう。すぐ近くの用水路では、ホトケドジョウや小さなヤゴにまじってニホンイモリが見つかりました。イモリは活動するにはまだ早いらしく、水中の枯葉の下でじっとしていました。

清和県民の森で

最後に清和県民の森の遊歩道をゆっくりと歩きました。もう3時を回り、ちょっと肌寒くなって来ましたが、こちらでもタチツボスミレの花が出迎えてくれま



(カタクリ) 千葉県レッドデータブックの重要保護生物。 里山を代表する植物であるが、千葉県は分布のほぼ南限にあたり、下草刈りなどの管理下でないと生きていけない。



(ニオイタチツボスミレ) 葉などはタチツボスミレに似るが、花弁の色が濃く、花の中心部の白い色とのコントラストが強いのが特徴。

(キブシ) 一見、実のように見えるクリーム色のつぶは実は花。雌雄異株で写真のように花序が長い方が雄株。

した。マメザクラは早いものはもう散り始めていましたが、楽しみにしていたフモトスミレやシロバナショウジョウバカマはまだ花には早すぎたようです。沢沿いの道ではフサザクラの紅い花やキブシの髪飾りのようなクリーム色の花を見ることができました。クロマルハナバチは羽音を立てながらキブシの花の蜜を吸っていました。沢では「グゥッ、グゥッ」というタゴガエルの低い鳴き声が聞こえました。きっと近くの岩の隙間でメスを呼んでいるのでしょう。

春は慌ただしく過ぎていきます。これからはますます気温が上がり、毎週、いや毎日のように新しい花が咲き、木々の新緑も増していくことでしょう。虫たちもこれから夏にかけて、元気な活動を次第に見せてくれます。野山を歩く度に新たな発見があるのがこの季節です。

是非、近くの野山に出かけてみて下さい。



(今回見つけた動植物たち) 写真左上から時計回りに、楊枝の材料として有名なクロモジ、千葉県レッドデータブック最重要保護生物のニホンイモリ、アズマイチゲ、マメザクラ

「にぎわい調査団」の 春の観察会を開催しました

道本昌信:生物多様性センター

3月7日に生命のにぎわい調査団の春の観察会を、 匝瑳市八日市場の谷津田で開催しました。目当てはト ウキョウサンショウウオの卵塊です。当日は北風も穏 やかで、街の喧噪を離れたのどかな田園風景の中、春 の陽気を感じさせる暖かな日差しを受けながら、楽し い時間を過ごすことができました。

谷津田の脇にある絞り水がたまった水路では、
気宝のような形をしたトウキョウサンショウウオの卵塊をあちこちで見つけることができました。また、あらかじめ沈めておいたパイプを引き上げると、オスのトウキョウサンショウウオが潜んでいて、見事捕獲に成功しました。体長8cmほどの小さなオスですが、触るとつるつるしていてとても元気です。成体には滅多にお目にかかることができないので、参加者はみな大感激でした。



トウキョウサンショウウオの卵塊 (写真左) 春の日差しの中、谷津田の生物を観察する参加者たち (写真右)。

トウキョウサンショウウオは産卵期以外は水には入らず、山の土中にいます。2月以降の暖かい雨の降った日から2~3日後の夜に、メスが山沿いの流れの無い水路などに卵を産みに降りてきます。オスはメスが卵を産みにくるのを水の中でじっと待っています。今回捕獲したオスはそうした個体のひとつなのでしょう。

他の谷津では野生動物の痕跡を探しました。ウサギの糞や草を食べた跡を発見。イタチの糞も見つけました。大きな水路の脇にはカヤネズミの古い巣もありました。その他にも、ニホンアカガエル、カワニナ、ウマビル、マルタニシ、タイコウチなどのいろいろな生き物たちをみんなで見つけることができました。一見静かに見える谷津田にも、よく見てみるといろいろな生き物たちがにぎわいながら暮らしていることが分かります。

少し時間に余裕があったので、帰り道にコモウセン ゴケを見に行きました。地元の方の話では、以前はもっ と一杯生えていたとのこと。環境悪化が心配ですね。 参加者全員で記念撮影をして、楽しかった春の一日 を思い返しながら、みなさん帰路につきました。

夷隅川流域での取り組みを紹介します

忠田秀彦:生物多様性センター

太平洋に面したいすみ地域は、比較的温暖で自然も豊かな地域です。そしていすみ市には豊かな自然だけでなく、勇壮な大原はだか祭りや、「波の伊八」による欄間彫刻で有名な行元寺や飯縄寺などに代表される、文化が息づいています。自然と文化が重なりあういすみ市で、生物多様性の保全・再生と自然を活用した地域づくりを目指し、「夷隅川流域生物多様性保全協議会」を地元の5団体といすみ市及び千葉県で昨年10月に設立しました。里山から海岸にかけて協議会が取り組んだ活動を紹介します。

なぜ、「流域」なのか

千葉県が平成20年3月に策定した「生物多様性ちば県戦略」では、河川流域などの自然のまとまりに留意して、生物多様性の保全・再生に取り組むこととしています。生き物たちは、気候や地形、土壌、植生などが異なる様々な環境の中で、相互に関係を持ちながら、豊かな生態系を作り出しています。そのため、森や海で起きている出来事を、その起きている部分だけに目を向けても、なぜ、そのようなことが起きているのか理解することはできません。

千葉県の希少種 (千葉県レッドデータブックから)



メダカのオス。オスの背びれはメスより大きく、切れ込みのあるのが特徴。2008年8月 長生村内の用水路で採集・撮影

メダカは体長およそ4cmの淡水魚で、日本では北海道を除く全国各地に分布しています。かつては、田んぽの小川で水遊びをする子どもたちにとって最も身近な魚の一つでしたが、近年その姿を目にすることがめっきり少なくなってしまいました。その原因として、コンクリートのリ字溝を用いた水路の整備により生息場所が狭められたことや、外来種で繁殖力の強いカダヤシとの競合に負けたことなどがあげられます。メダカは、県民の皆さまの参加により身近な生きものを調査する「生命のにぎわい調査」の対象種になっています。水辺に出かけて、ちょっとメダカを探してみませんか?

(川瀬裕司:生物多様性センター

(重要保護生) メダカ

(メダ

森が荒れてきているという話を耳にしますが、なぜ 荒れてきているのかを森だけに目を向けてもよく分か りません。しかし、少し離れてみると、その原因とし て、林業の衰退であったり、酸性雨であったり、害獣 により植林が進まないためであったりと様々なものが 考えられます。しかも、こうした原因の一つ一つにも、 なぜ、林業が衰退してしまったのか、なぜ、酸性雨が 降ってくるのか、なぜ害獣が増えてしまったのか、そ れぞれにさらに理由があるのです。そのため、自然を 眺めるときにはより広い視点から眺めることがとても 大切なのです。

里山での取り組み

日本の国土の約2/3は森林です。日本は世界でも有数の森林国なのです。しかし、現在多くの山では、竹が勢いよく繁茂し、山道は茂った下草で覆われてしまうなど、荒れた姿が目立つようになりました。そこで協議会では、いすみ市山田六区の里山で山道の整備や竹の伐採、山の下草刈りなど、人の手があまり入っていなかった里山の整備を行いました。

安全講習を受けたボランティアがチェーンソーで細い木を伐採していくと、薄暗かった山に徐々に日が差し込み、木々の枝で遮られていた展望もひらけて、開放感いっぱい気持ちの良い場所を作ることができました。自分たちの作業により山の様子が一変するのを目の当たりにし、作業に参加したボランティアの人たちに、「地域の山を自分たちの手できれいな姿にしていきたい」という新たなやる気がわいてきているように感じられました。



もとは樹木で覆われていた薄暗かった所。山桜を残して間伐し、間伐材はデッキやベンチとして再利用した。

谷津田での取り組み

台地に入り込んだ細い谷を水田として利用する谷津田は、千葉県の特徴的な里山の風景を作り出しています。 そして、メダカやカエルをはじめトンボなど昆虫など多くの生き物たちが暮らす、生き物の宝庫でもあります。



耕作放棄されて5年経過した谷津田が、ボランティアの皆さ んの作業で、かつての姿を取り戻しました。

しかし谷津田は平野部の広い水田とは違い、農業を 営む上では決してよい条件とはいえません。そのため 谷津田でも耕作放棄が広がり、少し前までは秋になる と金色の稲穂が実っていた谷津田にアシやカヤが生い 茂り、かつては身近だった生き物たちの姿が見られな くなってしまった所もあります。

そこで、協議会ではいすみ市小沢の休耕田となった 谷津田で、下草刈りの他、水路などの水辺環境や谷津 田周辺の斜面林の手入れを行いました。

作業には、地元の方がボランティアとして参加して くださいました。作業を重ねるごとに、草が覆い隠 していた田んぼが姿を現し、淀んでいた水路にも再び 冷たい水が流れるようになりました。そして今年2月 には、昨年は見ることができなかったトウキョウサ ンショウウオの卵を見つけることができました。環境 に手を加えてきれいにすることで、生き物たちも再び 戻ってきてくれたのです。

河口部での取り組み

(海岸清掃)

夷隅川河口周辺の砂浜には、春から夏にかけてウミ ガメたちが産卵にやってくる場所です。しかし、この 砂浜に夷隅川から流出した多くの竹木が流れ着き、ウ ミガメの産卵への悪影響も懸念されます。そこで、昨 年12月13日の土曜日にいすみ市三軒屋の海岸で、清 掃活動を行いました。

当日はサーファーの方や地元の方々など200人を超 える多くの方々が、冬の曇り空の下、朝早くから集 まって下さいました。

参加者のみなさんには、自分たちの住んでいる地域 は自分たちの手できれいにしたいという思いがあった のではないでしょうか。約2時間の作業で、3千キロ を超える流竹木を回収し、あちらこちらに流竹木が散 乱していた朝の海岸とは見違えるようにきれいになり ました。人が集まったときの力ってすごいですね。



海岸清掃(写真左)と自然観察会(写真右)の様子

(自然観察会)

夷隅川河口沿岸部には、国の天然記念物に指定され ている太東海浜植物群落や、太平洋を一望できる燈 台のある太東埼など、自然を観察する絶好のポイント がたくさんあります。昨年11月29日の土曜日に、主 にいすみ市在住の方を対象に、「いすみの自然観察会」 を開催しました。

海浜植物群落や太東埼燈台などで、ボランティアか ら自然や地域の歴史についての説明を受け、参加者の みなさんそれぞれに、地元の自然に対する新たな発見 があったようでした。

広報活動

今年2月には、協議会の今年度の取り組みの報告 や、来場者といすみの自然や生き物ついての意見交換 を行うタウンミーティングを開催しました。また、夷 隅地域で見ることのできる様々な動植物たちについて 分かりやすく紹介したり、観察できる季節や生息場所 ごとに検索できる「いすみの生き物データベース」の ホームページ (http://isumi-nature.com/) も制作し ましたので、是非、ごらんになって下さい。

生物多様性保全に向けて 大学との連携を開始しました

昨年12月24日、江戸川大学、千葉大学、東京大 学、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学と千葉 県との間で「生物多様性に関する千葉県と大学との 連携に関する協定書」を締結しました。

これら6大学は、生物多様性に関する最先端の技 術・知見を有し、千葉県での研究も行っています。

今後、生物多様性の保全・ 再生に向けて、情報の共 有、モニタリング、共同研 究、人的交流・人材育成な どを行っていきます。



|千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性戦略推進室 生物多様性センター(担当: 忠田)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内) TEL 043 (265) 3601 FAX 043 (265) 3615

URL: http://www.bdcchiba.jp/index.html